

第114期 株主通信

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで





わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

目 次

株主の皆様へ	1
トピックス	2
連結決算のご報告	5
経営成績、事業別の営業の成果	
業績の推移	
連結貸借対照表要旨、連結損益計算書要旨	
連結キャッシュ・フロー計算書要旨、連結株主資本等変動計算書要旨	
単体決算のご報告	8
営業の成果、部門別営業の成果	
業績の推移	
貸借対照表要旨、損益計算書要旨	
完成工事ハイライト	10
会社の概況	11
商号、沿革、設立、営業種目	
資本金、株式の状況	
大株主の状況、株価の推移	
取締役および監査役	
執行役員	
事業所	
リゾート事業のご紹介	
(パサージュ琴海アイランドゴルフクラブ)	
(ホテル パサージュ琴海)	

株主の皆様へ



代表取締役社長
岩田 裕美

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第114期（平成26年4月1日から平成27年3月31日）の株主通信をお届けするにあたり、連結および個別決算を含め、会社の近況をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、政府による経済対策効果等により、景気は緩やかな回復基調をたどりました。

建設業界におきましては、公共投資は底堅く推移したものの、労務需給や原材料価格等の動向に注意を要するなど、引き続き厳しい経営環境が続きました。

このような環境の中、当社および当社連結子会社（以下「当社グループ」という）は、各社が有する技術の優位性を活かした受注活動やアスファルト合材等の製品販売を強化するとともに、コスト削減や業務の効率化に努めてまいりました。

今後のわが国経済は、政府による経済の好循環の更なる拡大に向けた各種政策の実行により緩やかな回復が期待されますが、世界経済をめぐる不確実性は依然として高く、景気を下押しするリスクとして懸念されています。

建設業界におきましては、企業収益改善による民間設備投資の増加は見込まれるものの、公共投資の先行きは弱い動きとなることが推測されており、企業間の熾烈な受注競争や建設物価の上昇など、業界を取り巻く経営環境は、引き続き厳しい状況が予想されます。

このような環境の中、当社グループは、持てる技術力や機動力を発揮し、引き続き震災復興に全力で取り組むとともに、技術と経営に優れた企業集団として技術力の向上、営業力の強化、原材料価格上昇への適切な対応に努めるほか、生産性の向上とコスト削減を確実に進め、競争力の強化に取り組んでまいります。そして、舗装工事、土木工事、製品販売の収益基盤の一層の確立を進めるとともに、建築、開発、海外事業の事業収益の安定化に努めてまいります。

なお、当社は、平成27年1月28日、東日本高速道路株式会社東北支社および国土交通省東北地方整備局が発注する道路舗装工事に関する独占禁止法違反の疑いで、公正取引委員会の立入検査を受けました。当社はこれを厳粛かつ真摯に受け止め、公正取引委員会の調査には全面的に協力するとともに、更なる法令遵守の徹底に全力を傾注してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格段のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

株式会社 NIPPO

代表取締役社長 岩田 裕美

トピックス

夏季に公道で行う競技に対する暑さ対策が本格化

「遮熱性舗装」「保水性舗装」の普及が促進

国土交通省では4月17日、2020年に向けマラソンや競歩、自転車競技、トライアスロンなど公道で行う競技の暑さ対策を協議する有識者検討会（「アスリート・観客にやさしい道の検討会」）の初会合を開催しました。5月には、関係府省庁や東京都などを交えた連絡会議も設置されています。

その取り組みの1つに挙げられているのが、路面の温度上昇を抑制する舗装技術の普及です。特に「**遮熱性舗装**」や「**保水性舗装**」が期待されています。

NIPPOは「遮熱性舗装」の開発企業であり、国際道路連

盟（IRF）の「世界道路功績賞」や世界道路協会（PIARC）の「最優秀革新賞」を受賞するなど、日本発の技術を世界に発信するとともに、夏季のヒートアイランド現象の緩和のため、その普及に努めてきました。

今後も、夏季の道路環境の快適性を追求するべく、積極的な展開を図ってまいります。



メキシコシティで開かれたPIARC「最優秀革新賞」の授賞式の様子

遮熱性舗装 パーフェクトクール

舗装の表面に設けた遮熱コート層が近赤外線を反射することで、路面温度は一般のアスファルト舗装より10℃程度抑制できます。舗装が熱くなりにくいので、気温上昇や蓄熱を防ぐことができます。

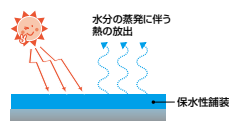


車道（バスレーン）と広場での施工例

保水性舗装 クールポリシール

空隙の多いアスファルト舗装内に、保水能力の大きい特殊な液体を注入・充填した舗装です。雨などで舗装内に溜められた水分が、太陽光によって蒸発する際に発生する気化熱によって、路面温度の上昇を抑制します。

保水性舗装の模式図



車道での保水性舗装の施工例

全国各地の橋梁における大規模更新・修繕事業が加速

床版を補修する「繊維入りコンクリート舗装」のニーズ拡大

国土交通省や地方自治体、高速道路各社では、現在、インフラの大規模更新事業・修繕事業に注力しています。中でも橋梁部分で用いられている部材の「床版」は、疲労や塩害などで劣化している部分を新規に交換するため、その規模は数兆円市場になると注目されています。

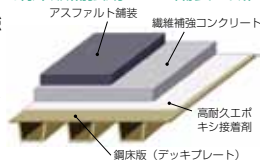
NIPPOでは、床版向けの各種工法の技術を展開し、数多くの施工実績を有していますが、インフラの老朽化対策や道路交通安全対策の一助として、今後も注力してまいります。



NIPPOが開発した「スマートフィニッシュ」による鋼床版補強用SFRC舗装の施工風景

NIPPOの主なコンクリート床版対策工法

- **床版上面増厚工法**：繊維で補強したコンクリートを薄層で舗装する工法です。鋼床版補強用SFRC舗装の断面
- **スマートオーバーレイ工法**：短い規制時間かつ低騒音で、床版を補修・補強する工法で、住宅地などに隣接した中小橋での施工に多数採用されています。
- **鋼床版補強用SFRC舗装**：亀裂対策のため、エポキシ樹脂材を塗布しながら、鋼繊維補強コンクリート（SFRC）を床版の上面に打継ぐ、強度が特徴の工法です。

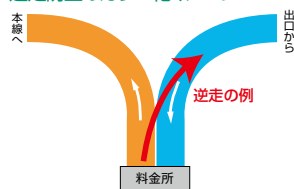


多発する高速道路の逆走防止へ路面のカラー化が切り札に

カラフルな「カラー舗装」を出入口部や交差部に普及

高速道路会社6社は、2014年に確認した高速道路での逆走は198件で、約半数はインターチェンジやジャンクションからの進入と発表しました（4月28日）。それを受けて、高速出入口部への逆走防止のため緑色のカラー舗装で入口へ誘導し、入口と出口が交差する箇所では、本線へ入る車線をオレンジに、本線からの出口の車線を水色にカラー化する対策に乗り出しました。

逆走防止のカラー化イメージ



NIPPOのカラー舗装による車両の誘導や進入防止例



カーブでの隣接車線との接触防止に



JR気仙沼線のBRT専用道路への進入防止に

NIPPOでは、景観対策や車線識別用に多種多彩なカラー舗装を展開していますが、逆走防止という命に係わる安全対策でも、より一層の技術提案や施工に努めてまいります。

2015年はチーム名を「NIPPO・ヴィーニファンティーニ・デローザ」としてヨーロッパで活動中

1987年に日本舗道レーシングチームが発足して以来、30年近くにわたって、NIPPOは自転車ロードレースチームのメインスポンサーとして、また全国各地で開かれる自転車ロードレース大会への協賛を通じて、自転車スポーツ振興・地域振興に取り組んできました。

2015年、NIPPOがサポートするロードレースチーム「NIPPO・ヴィーニファンティーニ・デローザ」は、自転車ロードレースカテゴリーの上から2番目に当たる「プロコンチネンタルチーム」にステージアップし、本場ヨーロッパのトップクラスのレースを中心に参戦しています。

また、同チームでは将来のロードレース界を担う若手日本人選手3名が、2020年に世界のトップシーンで活躍できるように育成を図っています。



「ツール・ド・フランス」個人総合7位、「ジロ・デ・イタリア」優勝という実力で世界中からの人気を誇るダミアノ・クネゴ（最前列）をキャプテンに、日本人若手3名を加えた17名の選手で構成

世界の自転車ロードレース カテゴリー

ワールドツアー
(ツール・ド・フランス等)
全レースへの出場義務あり
(世界で17チーム)

UCI ワールドチーム

ワールドツアーへ
ワイルドカード*で
出場可能 ※招待出場枠
(世界で17チーム)

プロコンチネンタルチーム

ワールドツアー出場不可
(2014年までのTeamNIPPO)
アジア等地域ごとのラング
を競う (世界で約170チーム)

コンチネンタルチーム

クラブチーム (実業団等)

「ジロ・デ・イタリア」に招待枠で初出場

「ツール・ド・フランス」や「ブエルタ・ア・エスパーニャ」と並んで「3大ツール」と呼ばれる「ジロ・デ・イタリア」は、欧州を中心に絶大な人気を誇る世界的スポーツイベント。約3,500kmを走る過酷なレースに初参戦し、上位入賞するなど見せ場を作り、また一切のペナルティを受けなかったため「フェアプレー賞」を獲得しました。



最終日にフェアプレー賞の受賞で登壇

NIPPOの自転車競技の普及・振興活動



国内最大の大会の1つ「ツール・ド・北海道」に1987年より公式スポンサーを務めるなど多くの大会を協賛しています



日本ナショナルチームのサポート活動を通じて、自転車競技界の底上げにも注力しています



各大会には地元の社員やマスコットキャラクター「ミッチーくん」が応援に駆け付け、大会と地域を盛り上げています